
人材育成プログラムの紹介 (案)

1 人材育成プログラム

国内外で提供されている人材育成プログラムの提供内容を研修タイプ別に分類した。

- 評判の良い研修は座学に閉じず、実際のBOPビジネス担当者の話を聞くことや、ワークショップを開催しながら、ディスカッションを通じたビジネスモデル構築などを提供している。

研修メニュー	FASID(2010年度プログラム)	World Bank Institute(2008年度プログラム)
理論学習	<p>企業の社会的責任(CSR)と貧困削減に寄与するビジネス(BOP)の背景と理論～講師:上智大学教授～</p> <p>企業から見た途上国におけるCSR戦略(概論、アプローチ、評価)～講師:武田薬品工業～</p>	<p>Guest Lecture ～Global Trends, BOP Model・・・～</p> <p>Presentation ～WBCSD Framework, Inclusive and Sustainable Business in Arab World～</p>
事例学習	<p>途上国における日本企業のBOPの事例 ～講師:味の素他～</p> <p>インド経済の現状とタタ・グループ ～講師:拓殖大学教授～</p>	<p>Case Study Preparation ～Unilever, Nestle, Patorimonio Hoy・・・～</p> <p>Panel Discussion ～Global Trends, The Role of Financial Institutions, The Corruption Challenge in High Risk Environments・・・～</p>
現地視察	<p>海外研修(インド)</p> <p>1)インドの経済開発、2)NGOの活動、3)インド企業によるCSRとBOP、4)多国籍企業とNGOの連携、5)CSR・BOPとインドの開発</p>	—
ビジネスプラン 検討	<p>Next Generation BOP:Focusing on Markets & Enterprise～講師:コーネル大学教授～</p>	<p>Case Study Discussion ～Unilever, Nestle, Patorimonio Hoy・・・～</p> <p>Thematic Group Discussion ～Global Trends, Aligning Corporate Strategy with the Development Agenda, Promoting Good Governance・・・～</p>

1 人材育成プログラム

国内外で提供されている人材育成プログラムの提供内容を研修タイプ別に分類した。

- 評判の良い研修は座学に閉じず、実際のBOPビジネス担当者の話を聞くことや、ワークショップを開催しながら、ディスカッションを通じたビジネスモデル構築などを提供している。

研修メニュー	IDB	UNDP	WBCSD
理論学習	(BOPビジネスについて、一定程度の知識を前提としているので、プログラムの中では実施しないが、無料のワークショップでは提供している。)	(非公表)	(研修参加者個々人の学習にゆだねられるため、プログラムとしては実施していない。参加者のチームで独自に実施している可能性はある)
事例学習	(企業が応募する段階でビジネスモデル案を作成するため、プログラムの中では実施しないが、無料のワークショップでは提供している。)	ゲストレクチャーによる講演	(研修参加者個々人の学習にゆだねられるため、プログラムとしては実施していない。参加者のチームで独自に実施している可能性はある)
現地視察	実施せず	各回テーマ毎に必要な応じて現地視察	必要な応じて現地調査やインタビュー
ビジネスプラン 検討	応募企業の提案してきた(もしくは実際に実施している)ビジネスモデルに基づいて、IDBとDalbergがディスカッションを通じてコンサルティングサポートを実施している	財団の代表や当該分野の大学教授を囲んでディスカッション	チームメンバーとともに調査、分析

1 人材育成プログラム

国内外で提供されている人材育成プログラムの提供内容を研修タイプ別に分類した。

- 評判の良い研修は座学に閉じず、実際のBOPビジネス担当者の話を聞くことや、ワークショップを開催しながら、ディスカッションを通じたビジネスモデル構築などを提供している。

研修メニュー	Cornell Univ.-Michigan Univ	MIT
理論学習	読書、ディスカッション、インストラクターチーム指導によるシミュレーションを通じて、下記の手法を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> •BOPビジネスの基本的な戦略構築方法 •実際の地方におけるマーケティングの考え方 •開発における課題 •競合する関係者の間での利害関係の想定 •正しい起業方法を通じたビジネス創造のあり方 	目的: 途上国問題への導入 (講義、ケーススタディ、ロールプレイ、外部講師招聘) <ul style="list-style-type: none"> •途上国問題の歴史的背景 •途上国の現状 •これまでの試み
事例学習		目的: 途上国技術の設計方法を学ぶ (主にケーススタディ、実験) <ul style="list-style-type: none"> •途上国で求められている技術 •途上国特有の技術開発における制約 •実現に向けての課題と解決方法
現地視察	現地のNGOを通じて、BOP層にホームステイを行う。 (過去の例ではケニアやインド。実際の家庭での役割は現地で相談しながら決定する)	実験的に開発した商品やサービスを実験やビジネスコンテスト形式で、現地に沿うかどうかを検証する
ビジネスプラン検討	現地視察を終えたのちに、上記理論学習や事例学習で想定した内容について、更に深掘りをし、現地視察での実体験を通じて、研修者各自の中で体系化する。	目的: 新たな案の普及方法を学ぶ (主にケーススタディ、実験) <ul style="list-style-type: none"> •提携先探し、試験、生産をどう行うか •生産量、生産方法の検討 •財政面の検討、持続可能性

1 人材育成プログラム

FASID 開発と企業セミナー(開発途上国における企業の社会的責任(CSR)=多様化する企業価値への対応=)

開催組織	(財)国際開発高等教育機構 Foundation for Advanced Studies on International Development
目的	CSRやBOPの概念や領域は、常に変化している。本セミナーでは、CSRの発展の背景にある世界の潮流をいち早く捉え紹介し、日本企業のCSR活動のあり方、特に開発途上国におけるCSRやBOPのあり方とステークホルダーとの関係を多角的に考察し、またメカニズム・具体的な方法論を提供し、議論する。なお本研修は、わが国の開発援助人材の育成を目的として行われるものである。
対象 (応募資格)	1) CSR関連業務に現在携わっている、あるいは将来的に携わる可能性のある民間企業勤務者。 2) 開発途上国におけるビジネス展開とCSR/BOPおよびステークホルダー・マネジメントの関連、企業と政府・市民社会の協働に関心のある民間企業勤務者。 3) 社会人としての勤務経験3年以上の方。 4) 海外研修参加希望者については、英語での受講およびディスカッション、プレゼンテーションが可能な方 (TOEIC670、TOEFL520(CBT190)、英検準一級以上を目安) ※途上国におけるわが国の企業活動に、業務上で関わる可能性のある政府関係機関職員・NGOスタッフも若干名対象とします
募集人員	1) 東京プログラムのみ参加:10名程度 2) 東京・海外両プログラム参加:15名程度 3) 部分参加:各日:若干名 講義参加の方を優先しますが、部分参加希望の方も受け付けます。東京プログラムのみ参加の方と、東京・海外両プログラム参加の方の間に優先順位はありません。尚、海外プログラムへの参加は東京プログラム修了(8割以上の出席)が条件です。
実施期間	<東京プログラム>:平成22年12月~平成23年1月 <海外プログラム>:平成23年2月6日(日)~13日(日)(予定)
開催場所	東京(海外研修はインド)
参加費用	1) 東京プログラム参加者 (1)全コース参加 15,000円 (2)部分参加:①第1回:3,000円②第2回:3,000円③第3回:6,000円④第4回:1,500円⑤第5回:1,500円 2) 東京・海外プログラム参加者:45,000円。東京プログラム参加費15,000円および海外研修受講料・航空運賃・宿泊施設代などが含まれます。日本国内旅費、パスポート取得費用は参加者の自己負担となります。 注1)東京プログラムについては、公務員等は無料、当財団法人賛助会員の職員・社員は半額です。 注2)1)2)とも、一旦お振込み頂いた参加費の返却は致しかねます。また、海外プログラムに関し、自己都合(修了要件の未了の場合を含む)によるキャンセルにより、航空便、宿泊先キャンセル料等実費が発生した場合はそのご負担をお願い致します。

1 人材育成プログラム

FASID 開発と企業セミナー(開発途上国における企業の社会的責任(CSR)=多様化する企業価値への対応=)

プログラム構成

分類	全体構成	講義内容	日程	テーマ	講師
理論編	理論Ⅰ	企業の社会的責任(CSR)と貧困削減に寄与するビジネス(BOP)の概論	第1回 12月12日(日) 10:00-17:00	企業の社会的責任(CSR)と貧困削減に寄与するビジネス(BOP)の背景と理論	上智大学 教授・国際教養学部長 岡田仁孝氏
	理論Ⅱ	海外・日本の事例に学ぶCSR戦略(日米欧の視点、動向、方向性)	第2回 12月23日(木・祝) 10:00-16:00	企業から見た途上国におけるCSR戦略(概論、アプローチ、評価)	武田薬品工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 シニアマネージャー 金田晃一氏
実践編	事例分析	途上国におけるCSR・BOPの事例	第3回 1月9・10日(日、月・祝) 10:00-16:00	ワークショップ Next Generation BOP: Focusing on Markets & Enterprise	Dr. Mark Milstein Director of the Center for Sustainable Global Enterprise Cornell University
		ワークショップBOP(実例+討議) 最新の実例	第4回 1月15日(土) 9:00-12:00	途上国における日本企業のBOPの事例	上智大学 教授・国際教養学部長 岡田仁孝氏 各企業からの講師(味の素(株)他)
	現場視察	海外研修(インド) 現場訪問(日系、欧米、現地)	第5回 1月24日(月) 18:45-20:45	インド経済の現状とタタ・グループ	拓殖大学 国際学部 教授 小島 眞氏
		海外研修 2011年2月6日(日) ~2月13日(日)	海外研修(インド) 講義・企業訪問(日系・欧米・現地)	コースディレクター 上智大学 教授・国際教養学部長 岡田仁孝氏	

プログラムの効果(参加者へのインタビュー調査より)

- 一部上場企業のBOPビジネス担当者は、本研修で得た知識を活用して、BOPビジネスの展開シナリオを作成し、後日副社長にプレゼンテーションを行った。
- 証券会社からの参加者は、既に開発されているBOPビジネス向けの商品の巻き返し方法について、社内で説得し、今はその商品販売において中心的な役割を果たしている。
- 東京大学が主催しているBOPビジネスコンテストに応募をする受講者もいた。
- 本研修を受講後、NPOを立ち上げた。FASIDと提携をしながら、BOP分野の有識者を招いた自主勉強会を開催するなど、ファシリテート側で活躍する受講生もいる。
- OBネットワークがしっかりしており、ビジネスを展開する上で人脈ネットワークが広がったことも大きな収穫である。
- 現地でのフィールドワークを行うことによって、日本で考えるBOP/CSRと開発途上国が考えるBOP/CSRの違いを明確に認識することができて大変参考になった。

1 人材育成プログラム

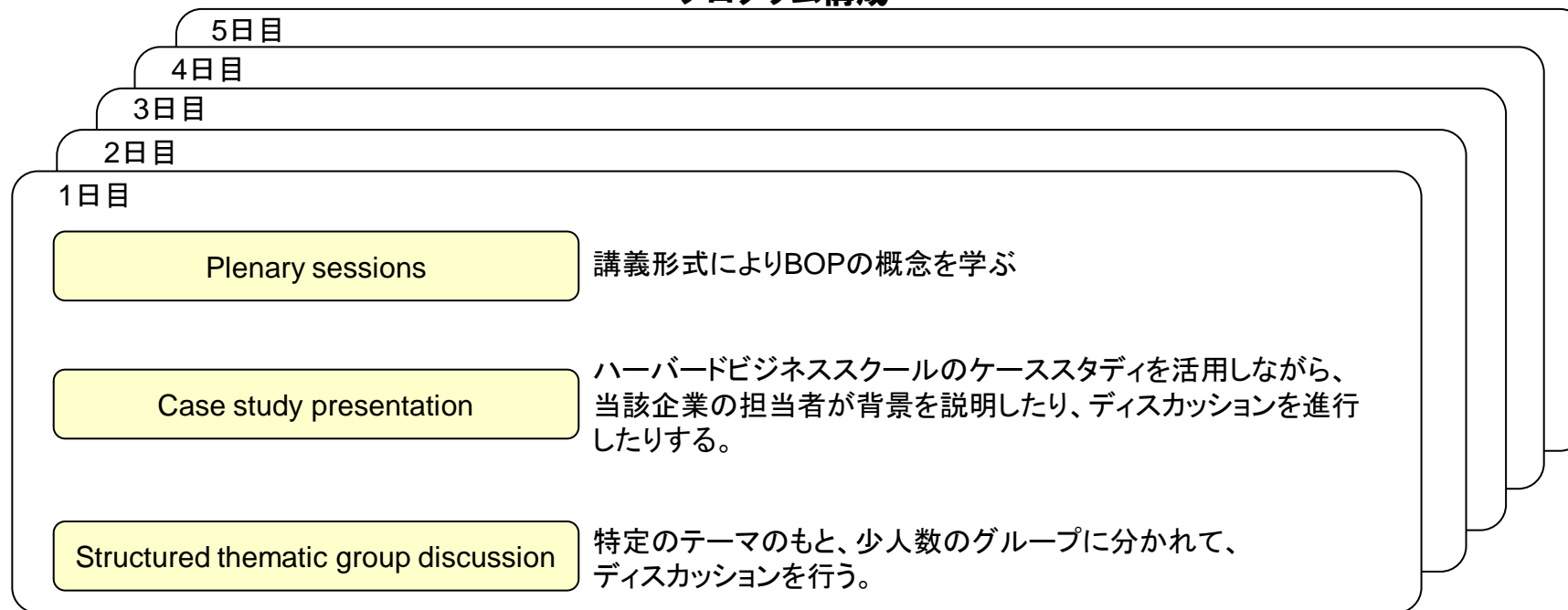
WBI Executive Development Programs on Inclusive and Sustainable Business

開催組織	World Bank Institute
目的	本プログラムの目的は、BOP分野で活躍している国際的な専門家やプログラムへの参加者間の相互交流を促し、アイデアやアプローチ方法の相互作用を奨励し、同じような課題に直面している個人間のネットワークを構築していくことである。また、本プログラムを通じて、プログラムへの参加者は自社の中で、WBIがリモートで本プログラムを展開する際にインストラクターとなることが期待されている。
対象 (応募資格)	1) 企業の規模を問わず、発展途上国におけるビジネスについてマネジメントができる管理職クラスが対象である。 2) 民間企業だけではなく、公的組織の管理職、資金提供企業の管理職、市民社会組織の代表、民間企業を巻き込んで開発に携わっている国際開発団体のスタッフも応募可能である。 3) 応募者は相互交流やナレッジシェアリングにおいて高いレベルで出来ることが要求される。
募集人員	20-30名程度
実施期間	5日間
開催場所	ワシントンD.C
参加費用	2,000ドル ※この費用には研修期間中の授業料、教材費、朝食、昼食、コーヒー代

1 人材育成プログラム

WBI Executive Development Programs on Inclusive and Sustainable Business

プログラム構成



プログラムの効果(WBIのプロシャーより)

- 企業戦略と社会環境課題をいかに紐づけるか、ということについて、ユニークで学際的な視点を得ることができ、低所得国の市場での成功するビジネスモデルを展開することが可能となる。
- BOP層の40億人にアプローチする方法を広げると同様に、世界的潮流や不均衡、機会がいかに企業戦略に影響を与えているかを発見することができる。
- 成長の障害となっている仕組みの存在を理解し、どのように乗り越えていくか、ということについて理解することができる。
- 良い統治、説明責任、産業間のパートナーシップ、影響度の測定などの要素が複雑に絡む課題に対しての学際的なアプローチを学ぶことができる。
- 自社の組織内に展開できる関連プロジェクトや企業の取り組みなどを知ることができる

1 人材育成プログラム

IDB Corporate Leaders Program for Success in Majority Markets

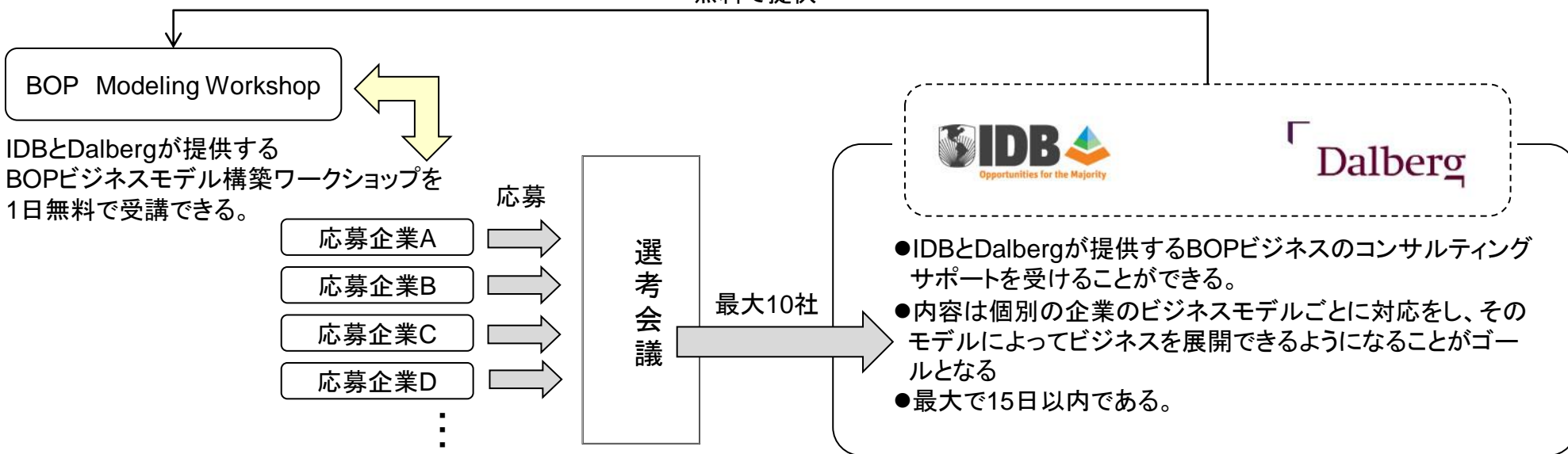
開催組織	The Inter-American Development Bank
目的	BOPビジネスのモデルを構築したい、もしくは既にパイロット的に実施しているモデルを拡大したい企業向けに設計されており、各企業においてBOPビジネス担当者を育成することが目的である。
対象 (応募資格)	<p>1) IDBから借入れをしている中南米26カ国(アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、ジャマイカ、ペルー、コロンビア、チリ等)を対象にBOPビジネスを展開している企業であること。</p> <p>2) 資本の大部分の拠出者(個人投資家、機関投資家)が、IDBに登録している48カ国の者であること(条件を満たせば法人格、国籍は問わない)。 ※日本はIDBに登録しているため、対象国である</p> <p>3) 毎年の売上が最低3,000万ドル以上あること</p> <p>4) IDBのファイナンスガイドライン、リーガルガイドライン、CSRについて、順守できる企業であること</p> <p>上記の条件を満たす企業のうち、IDBとDalberg、その他外部の専門家で構成される評価会議で選定されることが条件である。選定の視点は、ビジネスアイデアにBOPへの潜在的インパクトがあるか、ビジネスコンセプトに実現可能性があるか、企業としてのBOPビジネスへのコミットの度合いが高いか、の3点である。</p>
募集人員	10社以内
実施期間	15日が上限
開催場所	マイアミ
参加費用	<p>企業は15,000ドルの費用を負担すること</p> <p>※この費用には開催地(例:マイアミ)への渡航費用、現地での宿泊費などが含まれている。</p> <p>※主にDalbergが提供するBOPビジネスサポート費用として利用される(IDBの見積もりでは50,000ドル)</p>

1 人材育成プログラム

IDB Corporate Leaders Program for Success in Majority Markets

プログラム構成

無料で提供



プログラムの効果(IDBのブローシャーより)

- IDBとDalbergが提供するBOPビジネスサポートによりノウハウ不足の解消や、BOPビジネスを展開する上で、陥りやすい課題に適切に対処できるようになる。
- IDBは中長期にわたるローンの供与やBOPビジネスを展開する民間企業への信用保証などを提供しているが、本プログラムを修了した企業はIDBが提供する財政サポートプログラムへ応募する準備が整った段階にある、と考えられる(しかし、財政サポートプログラムに応募することが参加の条件ではなく、一方、本プログラムに参加したからと言って、財政サポートを受けられる、というものでもない)。

1 人材育成プログラム

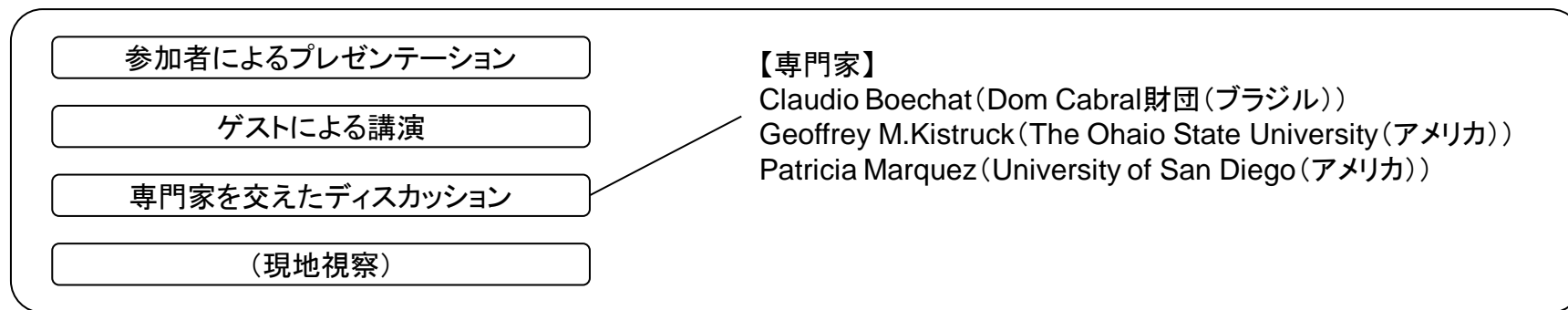
UNDP Oikos UNDP Young Scholars Development Academy

開催組織	United Nations Development Programme (国際連合開発計画)
目的	本プログラムの目的は、BOP、開発、統治問題に関する学術的研究を発展させ、学問領域を超えたネットワークを構築し、学界とビジネスの両面に係る研究の基礎を確立することである。
対象 (応募資格)	貧困や、マネジメントもしくは経済的側面からの開発について研究をしている博士課程の学生、または若手研究者 以下の書類を提出の上、選考された者だけが受講することができる。 1)最大で2-3ページ程度の(毎回のテーマに対する)提案概要 2)受講している授業の簡単な履歴 3)Oikos UNDP Young Scholars Development Academyの志望動機
募集人員	15名以内
実施期間	2010年8月29日 - 2010年9月3日
開催場所	コスタリカのTurrialba and Alajuela
参加費用	400スイスフラン(約35,000円) ※The oikos Foundation for Economy and Ecologyに支払われる当費用には、宿泊費、食費、現地調査費用が含まれている。 ※開発途上国からの参加者で、成績が優秀なものは、UNDPのGrowing Inclusive Markets Initiativeによって、渡航費、宿泊費、食費の3つが無料となる。

1 人材育成プログラム

UNDP Oikos UNDP Young Scholars Development Academy

プログラム構成



- 参加者は本プログラムを受講した後、下記のテーマの中からレポートか詳細な研究計画書を提出する
 - Development economics and fundamental basics of developing country markets;
 - Business models, product-service systems and framework conditions for inclusive markets;
 - BoP strategies in businesses and enterprises, including local and foreign ones;
 - Interaction, education and outreach, partnerships and innovation networks;
 - Environmental economics, governance regimes and management in poverty contexts;
 - Poverty and sustainability impact assessment and evaluation.

プログラムの効果(Young Scholars Development Academyのブローシャー、参加者の声より)

- 学術的な厳格性と現実的なトピックを融合させた驚くべきアカデミーだ。多くのことを学んだし、優秀な大学院生に会えたのはとても嬉しい。
- 最高だ！ BOP分野におけるより厳密な必要性を満たす価値あるプラットフォームだ。
- 参加している大学院生と若手研究者を素晴らしくミックスしている。
- ファンタスティックだ。このアカデミーは大変参考になったし、参加できる機会を得たことは大変光栄なことだ。自分の研究においてここまで建設的なフィードバックを今まで受けたことがない。
- BOPが本当に意味していることは何か、という多くの議論がある難しい分野で、学問と実務をとってもよく考えられた形で融合している。

1 人材育成プログラム

WBCSD Future Leaders Team

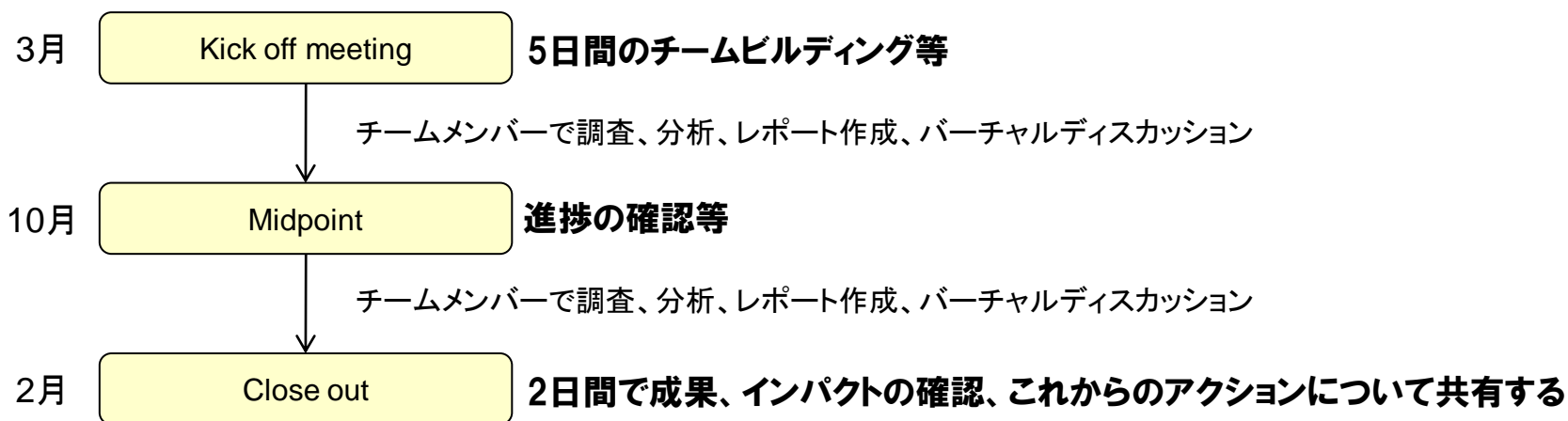
開催組織	World Business Council for Sustainable Development (WBCSD)
目的	<p>WBCSDが有する下記の活動を通じて、企業内においてBOPビジネスを実践する人が、企業や社会で持続的発展大使 (sustainable development ambassadors) として活躍できるようにすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能ビジネスにおいてglobal learning networkを生み出すこと ・産学の領域や国境を越えて志を同じくする個人に、専門家ネットワークとリンクできる機会を提供すること ・情報、経験、重要な学習機会を共有すること ・持続可能ビジネスの研究者へのアクセスできるようにすること ・WBCSDの動いているプログラムに従事する機会を提供すること。
対象 (応募資格)	<p>1) 応募要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験の有無にかかわらず、応募者は持続可能ビジネスに興味があること ・応募者はリーダーシップが発揮できること ・応募者の企業や応募者個人はプログラムで必要となる時間と費用の全てにコミットできること <p>2) 応募する上で、応募者個人が守るべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社のリエゾンオフィスの代表者やその他のステークホルダーと常にコミュニケーションが取れること ・事前の質問への回答と課題図書を読んでおくこと ・自社のリエゾンオフィスの代表者に、プログラムの目的、コミュニケーションの機会、プログラム後の協力について一筆貰うこと ・1年を通じて25日間はコミットすること。そのうち10日間はフェイストゥフェイスのmtgを開催し、15日間は調査、執筆、分析、バーチャルmtgを行うこと。 ・国際電話もしくはインターネットにアクセスできるようにすること ・年間を通じて最低でも3回は海外出張ができること <p>3) 社員を応募させる企業が守るべき内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募する企業は、応募者を将来の幹部としてノミネートすること ・自社のリエゾンオフィスの代表者と応募者がプログラムの目的、コミュニケーションの機会、プログラム後の協力について協力できるよう取り計らうこと ・自社のリエゾンオフィスの代表者に、応募者が事前、事後の活動ができるような機会を提供すること ・応募者が年間で25日間、本プログラムに従事することを認めること
募集人員	25名(2008年度)
実施期間	1年間を通じて実施するが、25日間は本プログラムに専念すること
開催場所	スイス
参加費用	<p>運営費に5,000スイスフラン(約400,000円) その他年に数回行われる国際会議への出席費用。WBCSDの見積もりでは2,000スイスフラン(約160,000円)／回</p>

1 人材育成プログラム

WBCSD Future Leaders Team

プログラム構成

- 3回のフェイストゥフェイスのmtgをマイルストーンとし、その間をチームメンバーが調査、レポート作成、分析、ネット上でのバーチャルなmtgを開催する。



プログラムの効果(WBCSDのブローシャーより)

- 持続可能ビジネスにおけるリスクと機会を認識できるようになる
- 長期のビジネス展望を描けるようになる
- プロジェクトの更なる展開とマネジメントの経験を得られるようになる
- 幅広いステークホルダーと意見交換ができるようになる
- 個人的もしくは専門的な知識と経験を共有することができるようになる
- 持続可能ビジネスのキーパーソンと協働できるようになる
- 機能、分野、国境を越えて新しい人脈を構築することができるようになる
- 自社内において持続可能ビジネスの将来像を描けるようになる
- 現地と世界のビジネスコンテキストを理解できるようになる

1 人材育成プログラム

Cornell Univ.-Michigan Univ. BOP Protocol LTC (Leader Training and Certification Program)

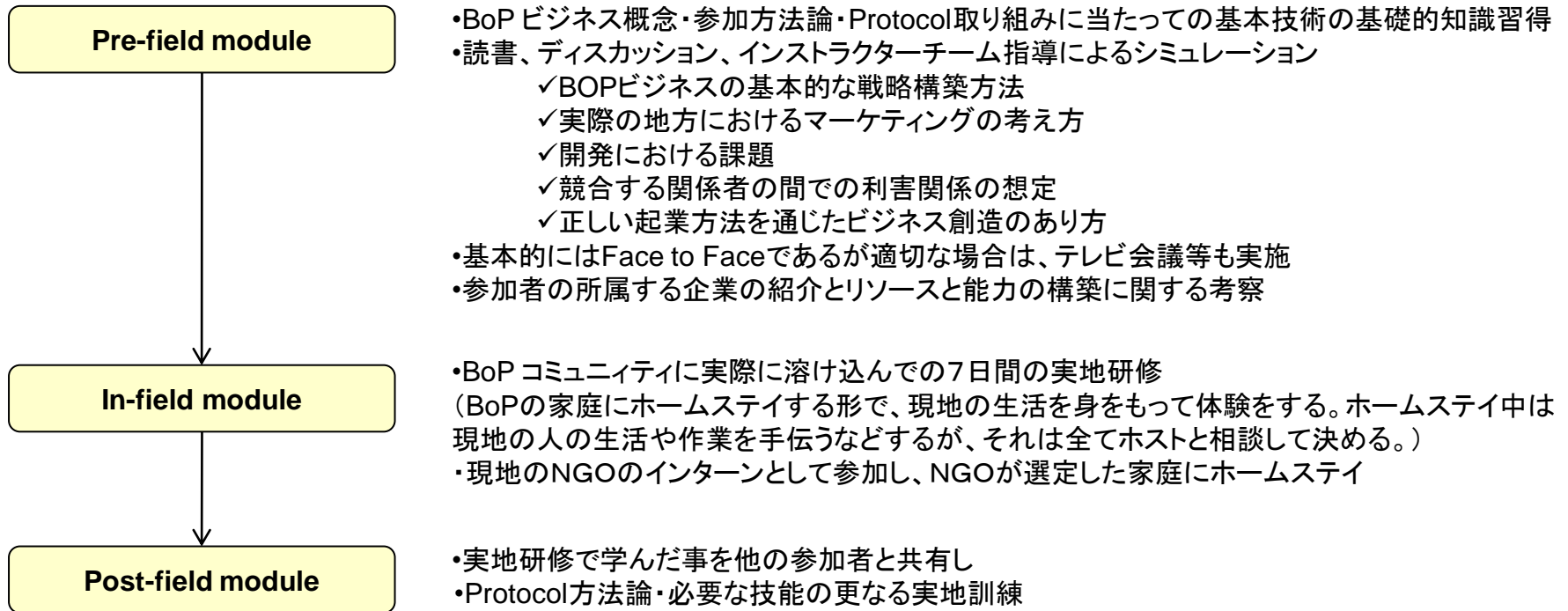
開催組織	Cornell Univ.-Michigan Univ.
目的	企業(組織)におけるBOP Protocol のチームメンバーもしくはリーダーとなりうる、熟練 (“黒帯”)集団を育成することである。
対象 (応募資格)	<p>ひとつの企業内の異なる部署から10-15名 もしくは、4-5社から2-3名ずつ</p> <ol style="list-style-type: none">1) 過去に、農村/貧民街/市街地の貧しいコミュニティに住んでいた、もしくは、そうしたコミュニティと密に関連し働いていた経験がある2) 過去に起業をリード、もしくは、参加した経験がある3) 財務/経理/オペレーション/マーケティングの経験・知識、もしくはMBAと同様のバックグラウンドを有している4) 貧困問題とビジネスを通じての持続可能な発展に従事する熱意を持っている5) 非常に不安定な状況下で働くことが出来る6) 教育/経験等の点で多様なバックグラウンドを持つ人達と対等に従事・学ぶことが出来る <p>CVにより上記の条件を満たすかどうか判断</p> <p>CV通過者後、個人面接</p>
募集人員	10-15 (上限)名
実施期間	3-4ヶ月 (うち7日間はフルタイムでの実地研修が必須)
開催場所	過去の事例:ケニア及びインド
参加費用	\$15,000 (渡航費用・宿泊費は含まれない)

1 人材育成プログラム

Cornell Univ.-Michigan Univ. BOP Protocol LTC (Leader Training and Certification Program)

プログラム構成

- 各々の参加者の実地経験を中心に構成された3段階から成る



プログラムの効果(BoP Protocol LTCのブローシャーより)

- 実地訓練・研修を通してのみ習得出来る、技能・手法を効果的に取り入れることで、
- ひとつの組織内の“黒帯”集団が、その能力を組織全体に普及させることができるようになる

1 人材育成プログラム

MIT D-Lab

開催組織	Massachusetts Institute of Technology (MIT)
目的	途上国開発を軸とし、適切な技術と持続可能なソリューション開発を促進すること 低価格技術の創出・導入により貧困世帯の生活を向上させること 学生にフィールドワークの機会を提供し、提携機関との強固な関係を維持させること
対象 (応募資格)	MIT もしくは MITとcross-registration(一校の大学に在学しながら別の大学で授授業を受け、その単位を自分の大学の単位に加算出来るシステム)を結んでいる協定校の学部生(大学院生はケースバイケース) 抽選により選抜
募集人員	8クラス200名 (2008年)
実施期間	1学期 (Fall Semester / Spring Semester)
開催場所	MIT
参加費用	現地へ赴き技術デモを実施する場合は、渡航費を学校が支援していることが多い

1 人材育成プログラム

MIT D-Lab

プログラム構成 (2009年Spring Semester)

基本となるクラス(D-Lab I, II, III)の他、扱う技術ごとのクラス(義足・車椅子・公衆衛生・情報)も開設されている

D-Lab I Development (開発)

目的: 途上国問題への導入

- 途上国問題の歴史的背景
- 途上国の現状
- これまでの試み

主に座学。講義、ケーススタディ、ロールプレイ、外部後援者
最終レポートは、一つの国について文化、歴史、経済を精査すること

D-Lab II Design (設計)

目的: 途上国技術の設計方法を学ぶ

- 途上国で求められている技術
- 途上国特有の技術開発における制約
- 実現に向けての課題と解決方法

主にケーススタディ、実験
最終レポートは、新たな案を考え、設計しプロトタイプを作ること

D-Lab III Dissemination (普及)

目的: 新たな案の普及方法を学ぶ

- 提携先探し、試験、生産をどう行うか
- 生産量、生産方法の検討
- 財政面の検討、持続可能性

主にケーススタディ、実験
最終レポートは、実際のアイデアをビジネス・コンテストで発表

プログラムの効果(D-Labのブローシャーより)

- 実際に使われる技術を早い段階で学ぶことにより、学習効果と意欲の向上が望める
- 貧困を緩和するという役割の楽観的・実用的な理解を得ることが出来る